

令和6年度 後志教育研修センター調査研究事業報告会 開催要項

1 事業の名称

令和6年度後志教育研修センター調査研究事業報告会

2 事業の目的

人と物が繋がる人間中心の社会「Society5.0時代」を推進する上において、デジタル化・オンライン化、そしてDXの加速化など社会背景が急激に変化する時代に突入している。次代を担う子どもたちには多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる資質・能力を身につけることが求められている。

現行の学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」の下、個別最適な学びと協働的な学びに一体的に取り組み、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取組をより一層推進していくことが重要である。

当センターではこれらの課題を踏まえ、北海道教育研究所連盟や後志社会教育主事会と連携を図りながら、調査研究事業を学習指導研究委員会と社会教育研究委員会の2本立てで推進してきている。本事業報告会は各学校の学習指導並びに校内研修を担当している教職員や社会教育に携わる社会教育主事等の参加を呼びかけ、当センターの中間報告として成果と課題を明らかにしていくものである。当センターが教育の専門的機関としての力量を高め、管内教育の一層の充実・発展に寄与していきたい。

3 事業の主催及び後援

(1) 主催 後志教育研修センター

(2) 後援 北海道教育庁後志教育局 後志町村教育委員会協議会 倶知安町教育委員会
小樽市教育委員会 後志へき地・複式教育研究連盟 後志小中学校長会
小樽市校長会 後志小中学校教頭会 小樽市教頭会 後志社会教育主事会

4 事業の実施内容

(1) 日時 令和7年1月10日(金) 14:00~16:00

(2) 会場 倶知安町文化福祉センター 公民館中ホール

(3) 参加対象 後志管内教職員、社会教育主事及び社会教育関係職員、教育関係者、所員

(4) 内容 令和6年度調査研究事業の報告(学習指導、社会教育)

① 学習指導に関する調査研究 (3年次研究の1年目)

○研究主題 『授業力の向上と校内研修の在り方』～子ども主体の授業づくりを通して～

○研究内容

学習指導要領で重要視している「主体的・対話的で深い学び」という学び方に向けて、「主体的に生きる」「多様な人々と生きる」「協力して生きる」「感謝して生きる」「誇りにして生きる」力を学ぶことに焦点を当てていく。3年次研究の1年次では、教師が一方的に教え込む授業から子どもが教わったことを生かして、自ら考え・判断し・表現して学び合う、そのような授業改善への転換を追究していく。所員担当の3つの研修講座と検証授業の実施を通して、授業力の向上と校内研修の在り方の調査研究を深めていく。

さらには、教職員の授業力向上をねらいとして、Web上で立ち上げている指導案バンクを管内の教職員が気軽に使えるよう充実を図っていく。

○研究委員長 輪嶋 隼

副委員長 中村かずえ、菊地勇人

② 社会教育に関する調査研究 (5年次研究の2年目)

○研究主題 『持続可能な社会に向け、地域の可能性を引き出す学びをつくる社会教育のあり方』
～後志管内におけるコミュニティ・スクールと地学協働の現状と課題～

○研究内容

令和5年度より研究主題を『持続可能な社会に向け、地域の可能性を引き出す学びをつくる社会教育の在り方』とし、地域・学校・行政が連携して地域社会を持続していくための社会教育の役割について追究していく。

5年次研究の2年目となる今年度は管内の学校運営協議会と地域学校協働活動の現状や課題点について情報収集を行なうため、アンケート調査や管内の社会教育担当者が集まる研修会等を行い、地学協働の更なる充実を目指す。

○研究委員長 渡辺美月

副委員長 上仙知巳

5 当日の日程

13:30	14:00	14:20	15:55	16:00
受付	開会式	調査研究の報告		閉会式

事業終了報告書

事業名	令和5年度後志教育研修センター調査研究事業報告会
主催者名	後志教育研修センター
後援者名	北海道教育庁後志教育局 後志町村教育委員会協議会 倶知安町教育委員会 小樽市教育委員会 後志小中学校長会 小樽市校長会 後志小中学校教頭会 小樽市教頭会 後志へき地・複式教育研究連盟 後志社会教育主事会
実施日時	令和7年1月10日(金) 14:00～16:00
実施場所	倶知安町文化福祉センター公民館 中ホール
対象及び人数	後志管内教員、社会教育担当者並びに教育関係者 合計75名
入場料金	無料
事業内容	<p>(1)学習指導に関する調査研究からの報告（3年次研究の1年目） 研究主題「授業力の向上と校内研修の在り方」～子ども主体の授業づくりを通して～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 研究の概要と推進計画について 2 研修講座・検証授業・指導案バンク・オンデマンドについて 3 今年度の成果と課題について 4 来年度にむけて <p>(2)社会教育に関する調査研究からの報告（5年次研究の2年目） 研究主題「持続可能な社会に向け、地域の可能性を引き出す学びをつくる社会教育の在り方」～後志管内におけるコミュニティ・スクールと地学協働の現状と課題～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 調査研究内容について 2 アンケート調査の結果から見る後志管内のコミュニティ・スクールの現状 3 次年度にむけて
事業成果	<p>□事業内容（1）に係る成果 初年次の研究では、所員担当の3つの研修講座と学校の検証授業を通して、授業力の向上と校内研修の在り方について、主題や仮説を立て、その共通理解を深めてきた。情報収集の1年として、アンケートの実施や研修講座における先生方の困り感の分析を行ってきた。その結果、変化が必要な中でなかなか情報が手に入られず、困っていると共に、必要な情報が必要な人に届いていないことが確認できた。 『板書型指導案』と『指導案バンク』の取組が、学校や先生方に着実に浸透しつつあることを実感することができた。また、研修講座内容について次年度以降に向けた要望等もいくつか指摘があった。更に当センターの研究内容をわかりやすく管内に広め、各学校のOJTに寄与できる研究をより一層深める重要性を再確認した。</p> <p>□事業内容（2）に係る成果 2年次目の研究では地域・学校・行政が連携して地域社会を持続していくための社会教育の役割について研究を推進してきた。管内の学校運営協議会と地域学校協働活動の現状や課題点について情報収集を行なうため、アンケート調査や管内の社会教育担当者が集まる研修会等を行い、地学協働の更なる充実を目指してきた。 『shiriBeshi』モデルへの期待の声が出ていたことは大変嬉しいことである。地域と学校が地学協働とコミュニティ・スクールのビジョンを共有し、学校教育と社会教育が互恵的な協力関係でもって地学協働を進めていくことの重要性を昨年度に引き続き、更に共通理解することができたことは非常に大きな成果であった。</p>

令和6年度後志教育研修センター調査研究事業報告会 R7.1.10(金)

□参加者の意見や感想 (黒字…プラスの評価、赤字…マイナスの評価、青字…要望等)

1. 学習指導に関する調査研究について

1. 「13の授業改善の視点はとても参考になる。授業改善をどこから手を付けて良いか悩んでいる先生方に伝えていきたい。板書型の指導案も活用していきたい」
2. 「授業づくりの視点について理解を深めることができた。タイムマネジメント例の明示が分かりやすく、実践しやすいと感じた」
3. 「講座の内容はどういったことを行うのか、より具体的な内容を提示してくれると参加する講座の幅が広がると思った(スライドp38課題に関わって)」
4. 「授業改善や校内研修など管内の先生方のニーズに応じて、講座を実施していることがよく伝わった。次年度は授業づくりの中で単元計画の作り方にも触れてもらえると嬉しい」
5. 「校内研修講座は各校でいかに互いの授業を見合い、高め合うことができるように体制をつくっていくか踏み込んで良いと思った」
6. 「授業づくり講座の初任者層においても、今後を考えれば、個別最適な学びと協働的な学びの一体化に向けた『即時交流』『他者参照』等のICTを活用した授業改善への講座の充実が求められるので、是非設定をお願いしたい」
7. 「校内研修の進め方や学習指導について、すぐに生かすことのできる内容の研修講座を開いてくれているのが分かりました。指導案バンクを作成していることも大変ありがたかった」
8. 「本校でも指導案バンクを活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びについて考え、授業を行っていきたい」
9. 「指導案バンクは管内各研究団体の今までの実践を持ち寄ることができれば更に充実すると思う」
10. 「指導案バンクがどこからアクセスできるのか、次年度の研修講座などで教えてほしいと思った」
11. 「成果が感想なので、この取組をどのように評価するかという視点があると良いと思う。単元の授業づくりが研修できればと思う」
12. 「多くの先生方が講座終了後に頑張ろうという気持ちになっているようで、最も大切なことだと思う」
13. 「6月と9月の研修講座は参加した先生方も良かったという声は聞いていたが、大変中身の濃い講座であったことが分かった。指導案バンクなど職場に戻ったら、すぐに確認したいものや、職場の先生方にも広く紹介し、刺激を与えられることができれば良い」
14. 「40代後半から50代にかけての教職員の意識をいかに変えていくかが今の本校の課題である。その一翼をセンターにも担ってほしい」
15. 「子ども主体の授業づくりにおいて板書型だけではなく、端末の活用などの指導案や授業づくりについても研究し、管内に広めていったほしい」
16. 「発表を聞いて、研修講座を受講したかったなど後悔した」
17. 「小樽市内あってもセンターの研究の成果について、もっと積極的に活用していくと良いと思う」
18. 「忙しい中、所員には管内の授業改善のために献身的に研究を進めていることに敬意と感謝を表す。校長として研修に関して指導していることがある。その観点を今後の研究の進め方に生かしてもらいたい」

2. 社会教育に関する調査研究について

1. 「後志CSの前進に向けた取組として、『shiriBeshi』モデルの提案はとても興味深く、進めていきたいものであった。一般化することでより地学協働への底上げになると思った」
2. 「本町では学校評価の結果の指摘に終始してしまっている状態で、大変悩みどころとなっている。そのような中、『shiriBeshi』モデルには大変期待している。今後たのしみである。」
3. 「学校運営協議会の活用に向けて管内で協力していこうとする動きは、管内の人的資源や組織を有効に生かせる良い取組と感じた」

4. 「地域でCSの人達に協力を求めたいと思っても、何ができるのか、どんな協力をしてもらえるのかあまり知らない。今後、管理職やCS担当の先生に質問していきながら、活用の機会が増えるようにしていきたいと思った」
5. 「コーディネータと教員や地域の方をつなぐための管理職のビジョンも重要だと感じた」
6. 広域的に取り組むことで、取組例を共有できたり、水準を高めたりすることができると思う。学校だけでは難しく思えることも、地域と共に進めることでより良い結果に結びついていくと思う」
7. 「他管内のCSの資料は見る機会があるが、もっと後志の実践例をより具体的に発信してみてもどうか」
8. 「何年間のサイクルで人が替わる学校やCS委員の間に、各町にコーディネータをおいてもらえれば前進につながるのではないかと思う」
9. 「教員は数年で異動となるため、学校支援内容として『ゲストティーチム』『学習アシスタント』『環境サポート』などがあるが、町村によって差異が生じているのが実際である。それらを明確にするためデータベース化し、利用・活用できることが必要であると思う」
10. 「なるほどと思ったのが、小中で社会(地域)に育ててもらったら、将来、地域の社会活動に参加するとの傾向があるということである。この考え方をもとに地域を巻き込んで早い段階から取り組む必要がある」
11. 「社会教育講座に参加し、様々な職種(主に行政の方)と意見交換した。コーディネータがいることに越したことはないが、『連絡をくれたら・・・』と待っている行政の方もたくさんいることが分かった。そのことを全体に周知する必要もある」
12. 「CSに関するモヤモヤ感の原因がわかる良い調査研究である。運営状況についての表はとても参考になる」
13. 「普段は校内のことばかりに目が行きがちだが、社会教育に関する視点でも考えることができた」

3. 「調査研究事業報告会」全体を通しての感想・意見

1. 「センターの校内研修講座に参加することによって、自分の研究の方向性をチェックしてきたが、今年度のまとめの時期にあって、今日ここに参加することで年度末に向けて何をすべきか、来年度に向けてどのような視点で進めていけばよいかビジョンが得られ、3学期すぐに動き出せる実践的なサジェスションを頂いた」
2. 「今回の報告会を通して、センターの取組と成果を理解することができた。研修講座に参加してない講座の内容を知る機会となった」
3. 「センターで行っている調査研究について、どのような目標・目的のもと、活動しているかが具体的に分かった。講座などで課題を共有するだけで安心することがあった」
4. 「今年度も今後のセンター活用についてたくさん前向きに考えることのできる貴重な機会となった」
5. 「報告の内容はとても充実していて、大変勉強になった。是非各校1名というより多くの教員に聞いてほしいと思った。時期が1月上旬なので会同とオンラインのハイブリッド形式にすると、もっと多くの教員が参加できると思う」
6. 「せっかく良い報告が広く届いてないように感じる。集合+オンライン、そしてオンデマンド配信でできるようにして、より多くの方に知らせられる報告会になればよいと思う」
7. 「センターの講座に今年度こんなにたくさんの参加者があったことにびっくりした。令和になってから、学び方が大きく変わっていくようになり、研修の重要性が増していると感じる」
8. 「助言者の的確な指導で色々なものが少しはっきり見えてきた。本当に良い研修になった」
9. 「助言者からの『共有』が求めるものを考えることで、研究がぶれないで進められるとの話はとても参考になった。評価についても具体性を持たせることの重要性について再確認することができた」
10. 「質疑の時間は、ないならないで良いと思う。助言の時間を長くしてほしい」
11. 「大変勉強になる報告と助言ばかりであった。報告会で得た情報や資料を自校で共有し、学習指導の方法の改善を図ったり、CSや社会教育についてより広く深くしてほしいと感じた」
12. 「今回の資料を回覧し、次年度こそは小樽からも一般の先生方の参加があるようにしたい」

令和六年度 後志教育研修センター

調査研究事業報告会

学習指導・社会教育研究委員会報告

期日 令和七年一月十日(金)
会場 倶知安町文化福祉センター公民館中ホール



来賓挨拶 後志教育局局長 新居 雅人 様



開会式 主催者挨拶 所長 長谷川 誠



閉会式 主催者挨拶 副所長 加藤 数馬



来賓の方々



助言者 熊坂 元宏 主任指導主事



助言者 渡辺 準 主査

学習指導に関する調査研究

研究主題 『授業力の向上と校内研修の在り方』

～子ども主体の授業づくりを通して～（3年次研究の1年目）

社会教育に関する調査研究

研究主題 『持続可能な社会に向け、地域の可能性を引き出す学びをつくる社会教育のあり方』

～後志管内におけるコミュニティ・スクールと地学協働の現状と課題～（5年次研究の2年目）



学習指導研究委員会

研究委員長 輪嶋 隼 所員
副委員長 菊地 勇人 所員



社会教育研究委員会

副委員長 上仙 知巳 所員
後志社会教育主事会

会長 白川 博順



会場の様子